

安全データシート(SDS)

STEM-404

1. 化学物質等及び会社情報

| | |
|---------------|--|
| 化学品の名称(製品名): | STEM-404 |
| 会社名: | 日本精鋳株式会社 |
| 住所: | 東京都新宿区下宮比町3-2 |
| 担当部門: | 営業部 |
| 電話番号: | 03-3235-0031 |
| FAX番号: | 03-3235-0034 |
| メールアドレス: | mail@nihonseiko.co.jp |
| 緊急連絡電話番号: | 中瀬製錬所 品質保証課 079-667-2121 |
| 推奨用途及び使用上の制限: | 工業用原料: 難燃剤 |

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類:
健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/刺激性 : 区分2A
水生環境有害性(急性) : 区分3
水生環境有害性(慢性) : 区分3

GHSラベル要素:
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
強い眼刺激
水生生物に有害
長期継続的影響による水生生物に有害のおそれ

注意書き

【安全対策】
取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受けること。

【保管】
無し。

【廃棄】
内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

| | |
|--|---|
| <p>GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性： 重要な徴候及び想定される非常事態の概要：</p> | <p>粉じん爆発の可能性がある。 情報なし。</p> |
| <p>3. 組成・成分情報 化学物質・混合物の区別： 化学名又は一般名： 慣用名又は別名： 化学特性（化学式等）： CAS番号： 濃度又は濃度範囲（含有率）： 官報公示整理番号（化審法・安衛法）： GHS分類に寄与する成分：</p> | <p>混合物 ①ピロリン酸ピペラジン ②リン酸塩 ③酸化亜鉛 ④ケイ素化合物 - ①非公開 ②非公開 ③ZnO ④非公開 ①66034-17-1 ②非公開 ③1314-13-2 ④非公開 ①45～60% ②30～45% ③2～6% ④非公開 ①既存化学物質 ②非公開 ③1-561 ④既存化学物質 無し</p> |
| <p>4. 応急措置 吸入した場合： 皮膚に付着した場合： 眼に入った場合： 飲み込んだ場合：</p> | <p>被災者を空気の新鮮な場所に移動させ、医師の診断を受ける。呼吸が弱い場合は人工呼吸を行う。 汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄する。石鹼を使ってよく落とす。外観に変化が見られたり、痛みや刺激が続く場合は直ちに医師の診断を受ける。 直ちに清浄な流水で15分間以上洗浄（容易に取り外せる場合はコンタクトレンズも外す）した後、眼科医の手当てを受けること。 水でよく口の中を洗浄する。安静にし、直ちに医師に見せる。意識のない場合は絶対に吐かせてはならない。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：</p> <p>応急措置をする者の保護：</p> <p>医師に対する特別な注意事項：</p> | <p>大量に吸入した場合は、頭痛、発熱、吐き気、嘔吐、脱力感、悪寒、筋肉痛を引き起こす可能性が有る。大量に経口摂取した場合は、腹痛、下痢、吐き気、嘔吐を引き起こす可能性がある。</p> <p>保護手袋、ゴーグルなどの適切な保護具を着用する。</p> <p>情報なし。</p> |
| <p>5. 火災時の措置</p> <p>適切な消火剤：</p> <p>使ってはならない消火剤：</p> <p>火災時の特有の危険有害性：</p> <p>特有の消火方法：</p> <p>消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：</p> | <p>環境に適切な消火剤を使用する。</p> <p>棒状の水</p> <p>燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。</p> <p>初期の火災には、粉末、炭酸ガス、乾燥砂等を用いる。大規模火災の場合は泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。</p> <p>関係者以外は安全な場所に避難させる。</p> <p>消火の為の放水などにより、英品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。</p> <p>燃焼ガスには一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業では適切な保護具を着用し、煙の吸入を避けること。</p> |
| <p>6. 漏出時の措置</p> <p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急事措置：</p> <p>環境に対する注意事項：</p> <p>封じ込め及び浄化の方法及び機材：</p> <p>二次災害の防止策：</p> | <p>保護具を着用していない人を近づけない。</p> <p>当該製品に急性毒性はないが、皮膚あるいは眼との接触を避けて、適切な保護具を着用すること。</p> <p>放出事故に際しては下水あるいは水路への流れ込み及び土壌浸透を避ける。漏洩物は関連法規に従い処分すること</p> <p>電気掃除機、ほうき等を使用して回収する。</p> <p>漏出物や残留物は密封可能な容器に全て回収すること。</p> <p>ばく露管理／人の保護あるいは廃棄に関する更なる情報はこのSDSの第8節及び13節を参照すること。</p> |
| <p>7. 取扱い及び保管上の注意</p> <p>取扱い：</p> <p>技術的対策</p> <p>安全取扱い注意事項</p> <p>接触回避</p> | <p>取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。取扱う場合は、局所排気内、または全体換気のある場所で取り扱う。</p> <p>粉じんを吸入しないよう防じんマスクを着用する。</p> <p>必要に応じて、局所排気を行う。</p> <p>作業場の喚起を十分行う。吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用し、出来るだけ風上から作業を行う。粉じん爆発の危険性も考えられるので大量の取り扱いには注意する。</p> <p>このSDSの第10節を参照すること。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>衛生対策</p> <p>保管： 安全な保管条件</p> <p>安全な容器包装材料</p> | <p>吸入及び経口摂取を避ける。 一般的な職場の衛生環境対策が必要である（定期清掃等）。 別途指定が無い場所での飲食・喫煙は禁止すること。 作業後は手を洗い、食事場所では汚染衣服・保護具を脱ぐ。 作業完了後はシャワーを浴びて着替える。 作業に使用した汚染衣服を自宅で着てはならない。</p> <p>湿度の低い換気の良い場所で直射日光を避け、密封状態にして保管すること。酸化剤との接触を避ける。 容器は、容器試験基準に適合していることを自主確認すること。</p> |
|---|--|

| | |
|---|--|
| <p>8. ばく露防止及び保護措置</p> <p>管理濃度： 許容濃度： 日本産業衛生学会 (2023年版) ACGIH (2024年版)</p> <p>設備対策：</p> <p>保護具： 呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p> <p>特別な注意事項：</p> | <p>設定なし</p> <p>酸化亜鉛(第二種粉じん) 吸入性粉じん 1mg/m³ 総粉じん 4mg/m³</p> <p>酸化亜鉛 2mg/m³ TLV-TWA 10mg/m³ TLV-TWA</p> <p>ピロリン酸ピペラジン 0.03ppm TLV-TWA</p> <p>適切な換気が行われていることを確認する。粉じんの蓄積が避けられない場所では、定期的に産業用の真空掃除機により取り除く必要がある。局所排気装置を用いて作業環境を良くする。</p> <p>防じんマスク（必要に応じて着用） 適切な保護手袋を着用すること。 適切な保護眼鏡を着用すること。 適切な保護長ぐつ、保護衣を着用すること。 環境に排出しないように注意する。</p> |
|---|--|

| | |
|---|---|
| <p>9. 物理的及び化学的性質</p> <p>外観： 物理的状态 形状 色</p> <p>臭い： 融点／凝固点： 沸点又は初留点及び沸騰範囲： 可燃性 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界： 引火点： 自然発火点： 分解温度： pH： 動粘性率： 溶解度： n-オクタノール/水分配係数：</p> | <p>固体 粉状 白色 無臭</p> <p>情報なし。 情報なし。 不燃性。</p> <p>非爆発性。 情報なし。 情報なし。 情報なし。 情報なし。 情報なし。 水に難溶。 情報なし。</p> |
|---|---|

| | |
|--|---|
| 蒸気圧： 密度及び／又は相対密度： 相対ガス密度： 粒子特性： その他のデータ： | 情報なし。 情報なし。 情報なし。 情報なし。 情報なし。 |
|--|---|

| | |
|---|---|
| 10. 安定性及び反応性 | |
| 反応性： 化学的安定性： 危険有害反応可能性： 避けるべき条件： 混触危険物質： 危険有害な分解生成物： その他： | 情報なし。 常温、常圧の通常状態下では安定である。 情報なし。 発火源、高温多湿状態 強塩基類、強酸類、酸化性物質(酸化剤)、過酸化物。安全な取扱いに関しては第7節を参照。 一酸化炭素。 情報なし。 |

| | | | | |
|--|---|----------------------------|---|---|
| 11. 有害性情報 | | | | |
| | ピロリン酸ピペラジン | リン酸塩 | 酸化亜鉛 | ケイ素化合物 |
| 急性毒性（経口）： | 区分外 LD ₅₀ > 2,000mg/kg (ラット) | 分類できない | 区分外 LD ₅₀ > 5,000mg/kg (ラット) | 区分外 LD ₅₀ > 5,000mg/kg (ラット) |
| 急性毒性（経皮）： | 区分外 LD ₅₀ > 2,000mg/kg (ラット) | 分類できない | 区分外 LD ₅₀ > 2,000mg/kg (ラット) | 分類できない |
| 急性毒性（吸入：粉じん・ミスト）： | 情報なし | 分類できない | 区分外 LC ₅₀ > 5.7mg/L (ラット) | 分類できない |
| 急性毒性（吸入：ガス・蒸気）： 皮膚腐食性／皮膚刺激性： 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： | 分類対象外 区分外 区分2A 中程度の刺激性有 (ウサギ) | 分類対象外 分類できない 分類できない | 分類対象外 区分外 区分外 | 区分外 区分外 |
| 呼吸器感受性又は皮膚感受性 生殖細胞変異原性 発がん性： | 分類できない 区分外 分類できない | 分類できない 分類できない 分類できない | 分類できない 分類できない 分類できない | 分類できない 区分外 区分外 |
| 生殖毒性： | 分類できない | 分類できない | 分類できない | 区分外 |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)： | 分類できない | 分類できない | 分類できない | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)： | 分類できない | 分類できない | 分類できない | 分類できない |
| 誤えん有害性： | 分類できない | 分類できない | 分類できない | 分類できない |

| | |
|---|---|
| 12. 環境影響情報 | |
| 生態毒性： 残留性・分解性： 生体蓄積性： 土壌中の移動性： | 混合物として知見は無いが、試験データのある成分を単純加算法で計算し、水生環境有害性(急性・慢性)は区分3とした。 混合物として知見無し。 混合物として知見無し。 混合物として知見無し。 |

| | |
|---|--|
| オゾン層への有害性： 他の有害情報： | オゾン破壊係数(ODP)の情報はなし。 情報なし。 |
| 13. 廃棄上の注意 化学品、汚染容器及び包装の安全で、必須かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報： | 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 |
| 14. 輸送上の注意 国際規制： 国連番号 品名(国連輸送品名) 国連分類 容器等級 海洋汚染物質 国内法規制： 陸上輸送 海上輸送 航空輸送 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策： 応急措置指針番号： | 該当しない。 該当しない。 該当しない。 該当しない。 該当しない。 該当しない。 該当しない。 該当しない。 該当しない。 該当しない。 車両には、運搬事故時の応急処置に必要な暴露防止上の保護具、及び漏出時の回収措置の為の道具を備える。 — |
| 15. 適用法令 労働安全衛生法： ※適用法令については、各地域の法規制に従うこと。 | 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 (法第57条1項・第57条2項、施行令第18条1項・2項) |
| 16. その他の情報 記載内容の取り扱い： 引用文献等： | 記載内容は現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成しており、新しい知見により改訂される事があります。 また、注意事項は通常の利用を前提としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。 ①GHS対応ガイドライン (一般財団法人 日本工業協会 編集 日本規格協会 発行) ②(財)製品評価技術基盤機構(Nite)_CHRIP検索結果 ③原料SDS |